

第 I 章 調査概要

三瓶埋没林の発見までには、約7年間に及ぶ試行錯誤期間があり、苦勞の末発見に至ったものである。また、発見以降の一連の調査は「三瓶埋没林調査保存検討委員会」（那須孝悌委員長）の指導助言のもとに行い、研究者や島根県立三瓶自然館、地元住民、関係機関、関係業者など多くのみなさんの協力のもとに進めてきた。

発見に至る経緯や平成14年3月までの調査等の経緯は、「三瓶埋没林調査報告書」（Ⅰ）及び（Ⅱ）で詳しく述べてあるので、詳細はこれらの報告書を参照されたい。ここでは、平成2年からの調査経過と、平成14年4月以降の調査概要について紹介する。

1. 調査等の経緯

- ・平成2年：調査のきっかけとなった写真の出現（吾郷忠芳氏より松井整司氏へ写真提供）
- ・平成3年10月：三瓶自然館へ情報提供（松井氏より）
- ・平成4年度：松井氏が情報収集をはじめ
- ・平成5年度：松井氏が三瓶自然館の協力のもとに、現地調査と聞き取り調査を実施
- ・平成6年10月：松井氏が自費でボーリング調査を実施
- ・平成6年12月：三瓶自然館が小豆原地区で情報収のための懇談会を開催
- ・平成6年12月：三瓶自然館と松井氏が現地で掘り出し調査を実施
- ・平成7～8年度：景観自然課が、三瓶山自然体験ゾーン拡充整備計画を策定（この中で拡充整備する三瓶自然館の展示の目玉の一つに、掘り出した埋もれ杉を使うことを提案）
- ・平成8年11月：三瓶自然館がボーリング調査を実施
- ・平成9年11月：川崎地質(株)が地中レーダー探査を実施
- ・平成10年10月：景観自然課が埋もれ杉の探査費用を予算化し予備調査に着手
- ・平成10年11月：景観自然課が地中レーダー探査を実施（地下構造の概要が明らかになる）
- ・平成10年11月14日：水田の表土はぎ取り調査により埋没木(A-1)を発見
- ・平成10年11月20日：発見した埋もれ木の近くで、ボーリング調査を実施（10mほどの幹を持つ巨木が直立状態で埋没していることを確認）
- ・平成10年12月：水田4,500m²について本格調査を実施（スギ11本、トチノキ1本の埋積を確認し大規模な埋没林であることが判明、この埋没林を「三瓶小豆原埋没林」と命名）
- ・平成10年12月：島根大学徳岡教授現地視察（没木の調査及方法等について指導を受ける）
- ・平成11年1月5～6日：国立歴史民族博物館辻 誠一朗助教授現地視察（全国の埋没林等についての情報を得る）
- ・平成11年1月11日：大田市に発見の報告を行う
- ・平成11年1月18日：大阪市自然史博物館館長那須孝悌氏、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター発掘技術研究室室長光谷拓実氏現地視察（今後の調査の進め方等について助言を得る）
- ・平成11年1月25日：三瓶小豆原埋没林の発見について、知事が記者会見（全国に報道される）
- ・平成11年1月29日：大田市三瓶町小豆原地区において地元住民への説明会開催（以後、必要に応じて地元説明会を開催）

- ・平成11年1月30日：第1回一般公開と現地説明会を開催（約500人が訪れる）
- ・平成11年2月22日：県が土地の一部を買収（土地所有者の協力のもとに水田4,655㎡を買収）、三瓶小豆原埋没林に関する緊急学術調査を開始
- ・平成11年3月10日：第2回一般公開と現地説明会を開催（約350人が訪れる）
- ・平成11年3月29日：第1回「三瓶埋没林調査保存検討委員会」開催（以後7回開催）
- ・平成11年8月：三瓶埋没林調査保存検討委員会の指導に基づき第一次学術調査がスタート
- ・平成11年9月5日：第3回一般公開と現地説明会を開催（約170人が訪れる）
- ・平成11年11月6日：第4回一般公開と現地説明会を開催（約420人が訪れる）
- ・平成11年12月1日：埋没スギA-9の保存処理を行うためクレーンで移動（高さ約5m, 重量約10t）
- ・平成12年1月26日：三瓶小豆原埋没林現地下流部水田4,251㎡を県が買収、以後第二次学術調査を実施
- ・平成12年4月25日～12年12月19日：「三瓶埋没林～発見とその後の展開～」と題し連載記事を山陰中央新報に掲載（30回）
- ・平成12年5月15日：埋没スギA-13から輪切り標本採取（年輪年代測定などを実施）
- ・平成12年5月18日：澄田島根県知事小豆原埋没林現地視察
- ・平成12年6月18日：第5回一般公開と現地説明会開催（見学者約800人）
- ・平成12年6月20日：三瓶自然館に展示するため埋没スギA-5を切り出す
- ・平成12年8月21日：埋没スギA-13の輪切り標本完成、島根県庁で展示
- ・平成12年9月19日：巨木流木群発見等について記者発表（B地区の埋没木確認状況、埋没スギA-5の合体木の可能性などについても公表）
- ・平成12年9月23日：第6回一般公開と現地説明会開催（見学者約600人）
- ・平成12年9月（～3月）：出土物の自然科学分析調査（古土壤、植物片出土物などについて、14C年代測定、樹種鑑定、被熱測定、花粉分析等）を実施
- ・平成12年11月（～3月）：第1回古土壤の洗い出し・分析調査実施（昆虫遺骸、植物片など）
- ・平成13年2月16日：三瓶小豆原埋没林の現地整備を決定、整備方針について記者発表
- ・平成13年2月：小豆原埋没林現地及び周辺の地中レーダー探査を実施（埋没直前の地形調査）
- ・平成13年3月：男三瓶北麓青年の家付近でボーリング調査を実施（埋没林成因調査）
- ・平成13年4月：三瓶小豆原埋没林の現地整備に着手（直径30mの円形発掘坑掘削工事他）
- ・平成13年6月：男三瓶北麓アワ畑でボーリング調査を実施（埋没林成因調査）
- ・平成13年7月17日：展示のため埋没木を三瓶自然館へ搬入
- ・平成14年1月：「合体木根株地下展示棟」整備工事着手
- ・平成14年1月（～3月）：第2回古土壤の洗い出し・分析調査（昆虫遺骸、植物片など）
- ・平成14年2月：稚児橋付近地層調査を実施（成因調査のための電気探査、ボーリング調査）
- ・平成14年3月：大田市が発掘現地左岸側の整備を決定（用地買収と「縄文の森」整備）

2. 平成14年4月以降の概要

- ・平成14年4月（～10月）

第3回古土壤の洗い出し・分析調査

現地で採取した古土壤について引き続き分析調査を行った。この結果、多くの植物遺体や昆虫遺

体が検出され、種の同定等を行った。また、花粉分析調査も行い、貴重な資料を得ることができた。

・平成14年4～5月

「縄文の森発掘保存展示棟」整備地の一般公開

整備途中の「縄文の森発掘保存展示棟」の一般公開と現地説明会を開催した。一般公開は4月18日から5月26日までの土・日・祝日に行い、延べ7,300人が現地を訪れた。

・平成14年7月31日

「縄文の森発掘保存展示棟」上屋建築工事に着手

直径30mのドーム型の上屋をもつ「縄文の森発掘保存展示棟」の建築工事に着手した。直立した埋没木や多くの流木を保護しながらの工事であり、作業は困難を極めた。

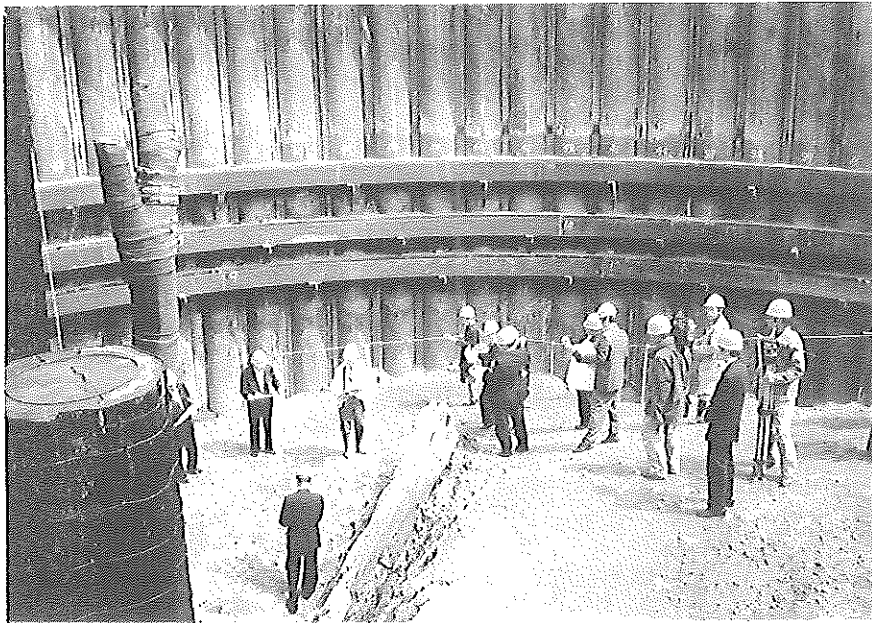


写真1-1 整備途中の発掘坑内の一般公開

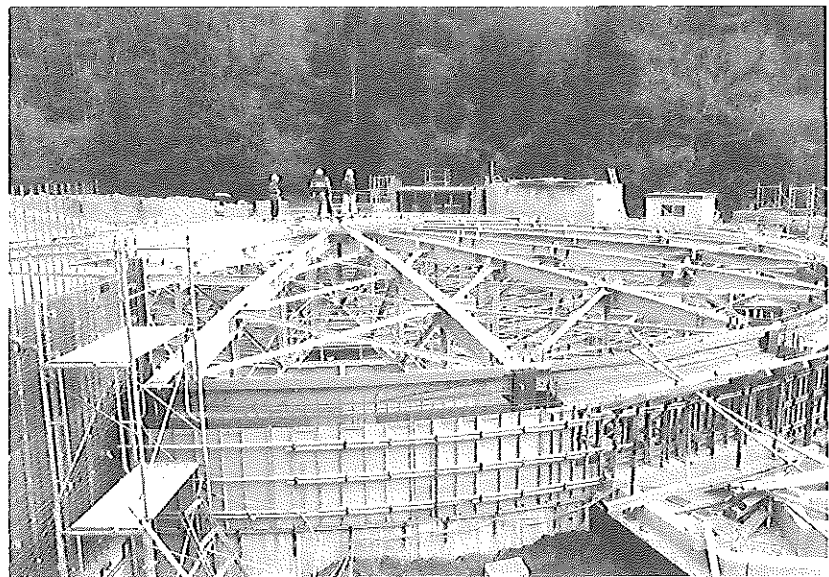


写真1-2 「縄文の森発掘保存展示棟」建築工事が始まる

[佐藤仁志]